

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 市 長	平成 24年 7月 26日
報告者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都市中京区壬生花井町3	報告者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者名) 日本写真印刷株式会社 代表取締役社長 鈴木 順也
京都市地球温暖化対策条例第22条第2項の規定により報告します。	
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	ISO14001:2004, JIS Q 14001:2004
適 用 範 囲	日本写真印刷株式会社および国内関係会社において行う生産・開発・販売・管理の活動および製品・サービスに適用する。
導 入 年 月 日	2001年 6月 20日
認 証 番 号	1552401
基 本 方 針	NISSHA環境方針(コピー)添付
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。)	<p>【地球温暖化防止】基準:2011年度実績値 2014年度までにCO2排出率(原単位)削減を、全社で3%以上削減する。</p> <p>【廃棄物の削減】基準:2011年度実績値 2014年度までの廃棄物発生率(原単位)を、全社で3%以上削減する。</p> <p>【有害化学物質の削減】</p> <p>(1) 製品含有化学物質の管理・削減 (Nisshaグループ環境管理物質管理基準[最新版]に基づく) 禁止物質:0件を維持 含有化学物質:代替化による削減 ※2012年度実態調査に基づき、関係する組織は2013年度以後に目標値を設定する</p> <p>(2) 工場及び開発部での有機溶剤の使用率低減 {(使用量又は購入量) / (生産量又は処理量)}の低減に取り組む (目標値は各工場で設定する。)</p> <p>【KPIの中での環境保全活動】 開発、設計、主材料や副資材の調達、生産、輸送、営業の各機能による環境改善</p>
目標を達成するための取組の内容	<p>全社目標を達成するため、全社目標に準じた環境目標を部門ごとに設定し、活動計画を立てて取り組んでいる。</p> <p>具体的には、</p> <p>【地球温暖化防止】 品質目標とリンクした良品率の向上、作業効率・機械の運転効率の改善、空調設定28℃、昼休み消灯徹底、近隣階への移動の際の階段利用、ネオンサインの消灯、PC、事務OA機器の節電モードと退社時の確認徹底、こまめな消灯、蛍光灯間引き、エレベータの時間外停止</p> <p>【廃棄物の削減】 品質目標とリンクした良品率の向上(不良品の削減) 廃棄物の有価物化推進、廃棄物の発生抑制</p> <p>【有害化学物質の低減】 物質管理体制の構築 製品の脱トルエン化の推進 特定化学物質の代替物質の使用検討</p> <p>【KPIの中での環境保全活動】 環境負荷の少ない製品設計 環境にやさしい購買品の使用、お客さまへの環境提案</p>
目標を達成するための取組の進捗状況	環境保全委員会を3ヶ月に1回開催し、全部門の目標達成状況、進捗状況を確認している。目標未達成が続く部門に対しては、原因の分析や活動の見直しを実施している。社内イントラネットに資料を掲載し、従業員に周知している。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	計画通りに取り組みを実施できている。
事業活動に係る法令の遵守の状況	毎月法改正情報のウォッチングと判定を行い「環境法規制一覧表」に反映している。定期的な内部監査の実施、各部門での法順守点検チェック、毎月開催の環境保全委員会の報告により順守状況を確認している。行政よりの指摘はなかった。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	内部監査およびマネジメントレビューとして年2回環境システム委員会を開催し、マネジメントシステムの評価、見直しを実施している。また環境マネジメントシステムの評価に関して、外部審査が実施されている。年に1度の維持審査、3年に1度の更新審査によりマネジメントシステム有効性の評価をしている。見直しに関して、必要に応じて実施されている。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。